

理由不明の脱退表明・組織破壊行為を認めない見解

11月14日、JR東海労務所に、藪秀一、田村浩彰、森下暢紀の3人が訪れ突然脱退届を提出しました。脱退の理由は、「JR東海労はJR総連と違う方向に行ってしまった」「JR総連と共に進む」というものでした。

私たちJR東海労は、職場から労働者の権利と利益を守るために闘ってきました。出向先でも同じように闘い、関西サービックでは心ある仲間達と共にJS労を結成し現在も労働条件改善の闘いを続けています。

このような職場で働く労働者の権利と利益を守るための闘いを否定して、真実を捻じ曲げ、組合員を騙し、私たちを「組織破壊者」にでっち上げ、「除名」しようとしているのが現在のJR総連指導部です。「違う方向に行ってしまった」のはJR東海労ではなくJR総連です。

脱退届を提出した3人は、「脱退してどうするのか。総連に加入するのか」という問いに「分からない。パイパンである」としか答えませんでした。そして「パイパンということは労働運動をやらない、放棄することか。JR総連と共にではないではないか」という問いに対しても「現時点白紙」と言うだけでした。このように「JR総連と共に」と言いつつ何も語れないのです。このように3人は、自らの考えと展望を持って脱退したわけではありません。明らかにJR総連の指導の下に画策された組織破壊攻撃といえます。だからこそ「JR総連と共に」と繰り返すことしかできないのです。

私たち新幹線地本は、3人の脱退表明に抗議し、このようなJR東海労組織を破壊する行為を認めません。

そして、今後もJS労の仲間はもとよりJRの職場、出向先の職場で共に働くすべての仲間達と団結を打ち固め、職場からの闘いを一層強化し、共に東海の地から労働運動の灯を燃やし続け、JR東海労の将来展望を創り出していこうではありませんか。

2024年11月15日

JR東海労新幹線地方本部